

2026 年度 寒地土木研究所一般公開 開催報告

国立研究開発法人土木研究所 寒地土木研究所 寒冷沿岸域チーム 水産土木チーム

寒地土木研究所では、研究成果や研究活動の内容をわかりやすく紹介し、土木技術への理解を深めていただくため、毎年施設の一般公開を実施しています。例年、試験研究機関や企業、行政関係者をはじめ、一般の方々やご家族連れ、幼稚園や小学校の団体など、幅広い層の皆様にご来場いただいています。

今年は「～ひらけ！北の技術、未来のカタチ～」をテーマに、7月3日(金)・4日(土)の2日間に亘り一般公開を開催しました。会場では15の研究チームが工夫を凝らした展示や体験コーナーを設け、来場者の皆様に研究成果や最新の技術を紹介し、2日間で延べ1,331名の皆様にご来場いただき、盛況のうちに終了しました。

当日は、子どもから大人まで多くの方々が各コーナーで実験や体験に参加し、研究技術の面白さや研究活動への理解を深めていました。

寒冷沿岸域チームでは、「いろんな波を知ろう！強い波に負けない港づくり」をテーマに、大型平面水槽内での造波実験を行い、港と防波堤の役割を体験していただきました。特に、津波は実験スケールの高さでも人は立っていられずに流されてしまうことから、津波注意報・警報が発令されたらすぐに避難することの重要性を体験していただきました。また、氷の構造物への衝突の様子を再現した実験や過去40年間のオホー

ツク海における波浪の変化を再現した数値シミュレーションの研究紹介を行い、防波堤で使われる消波ブロックの展示コーナーを設けました。

さらに、オホーツク海・極域などの寒冷海洋域での現場観測の研究風景や、現在地球規模で進行する地球温暖化や気候変動といった研究課題について、写真や全体像も交えながら解説するパネル展示も行いました。

また、水産土木チームでは、「スイサンドボクってなに？」をテーマに、水産土木の役割や藻場・漁場づくりなどの取組をわかりやすく紹介するコーナーを設け、藻場の役割についてのパネル展示、種苗ナマコの好適な生息環境として民間と共同開発した「ナマコのゆりかご」展示のほか、AIにより水中動画から海藻を自動判別している映像や、海の中で暮らす生物の展示、ハタハタの産卵場としての役割を持つ人工海藻の展示を行いました。

来場者の方々は展示物を興味深くご覧になっており、実際に見て、触れて、学ぶことで、普段は接する機会の少ない沿岸・水産分野の技術や研究への理解を深めていました。

今年も多くの皆さまにご来場いただき、誠にありがとうございました。来年も皆様のご来場をお待ちしております。また、技術相談についても随時受け付けております。どうぞお気軽にご相談下さい。

(文責：水産土木チーム 田村)



大型平面水槽での造波実験(寒冷沿岸域チーム)



地元小学生へ人工海藻の説明(水産土木チーム)



パネル・消波ブロック等の展示状況(寒冷沿岸域チーム)



地元小学生へナマコのゆりかごの説明(水産土木チーム)